

<今日の説教のポイント コリント書Ⅱ 7章2～16節>

6:11-7:16 は説明のいる箇所。それを聞いた上で、聞き取れることは？

1 (2-4) 「私たちに心を開いて下さい」 (6:11, 13, 7:1) に迷わされない。

6:14-7:1 の特殊性については先週お話ししました。つまり、6:11-13 は 7:2 以下に続くのですが、もう一つ注意点があります。始まりの「私たちに心を開いて下さい」(7:1) という言葉とは裏腹に、それ以後に記された内容は、手紙の相手のコリントの教会の人々がパウロの言うことをあつく信頼していた姿が報告されているということです。よって、今日はその後の内容から教えられることを考えたいと思います。

2 (5) パウロも不安、苦しみ、恐れを覚えることがあった！

信仰者になったらすべてが上手く行き、いつも平安でいられるわけではありません。パウロも不安、苦しみ、恐れの中に置かれたのです。

「試練 (誘惑)」とは信仰者にとって何でしょうか？ 神様をどこまで信頼しているかの「試し」であり、御言葉を信頼して歩み続けるときに必ず道が用意されていることを知らされていく恵みなのです (ヤコブ書 1:12-18、そしてそれに続く 19-27)。

3 (6-7) 神様は他の人を用いて私たちに慰めや希望を与えて下さる。

神様が手を差し伸べて下さる道は色々あります。この時の気落ちしたパウロにはテトスを用いて力づけて慰めと喜びを与えて下さったのです。イエス様は、神様は全ての人を用いて私たちの所に来てくださる方であると教えて下さいました (マタイによる福音書 25 章 31 節以下)。

4 (8-16) ただ罰するでなく、愛をもって神に向き直るために罰する。

教会の中の誤った人たちを放っておいてはならないとパウロは伝え、彼らはそれに従い注意し、罰しました(11)。しかし、同時に、パウロは罰した人たちが悔い改める (10、神に向き変える) ために、罰し過ぎず、愛をもって赦さないといけないと強く伝えています (2:1-11)。そして、それは功を奏したのでした(9)。親の子を育てる姿にもこれは当てはまるでしょうし、主の教会はまさにこのことを大事にして生きる神の民、神の家族なのです。その中に入れられたことに感謝です。